

博物館資源のオープン化，活用による文化創造
～知産知承を目指して～

平成 27 年 10 月 10 日
国立科学博物館 小川義和

1. 概要～スポーツを文化に～

2060 年には日本の人口が 8000 万人台に減少と予測される中で，わが国は文化国家としての存在意義を明確に打ち出していく必要があります。博物館が資料を収集保管し，その収蔵資料を社会に公開し，活用していくことが，地域の文化を創生・継承し，ひいては日本全体の文化を創造できる有効な手段です。2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京五輪）は，スポーツに関する人々の理解の促進を図る大きなチャンスです。これを契機に，東京五輪のレガシーとともに，地域にある文化資源を再発見し，将来に受け継ぐことが重要です。

2. コレクションネットワークと調査研究，教育活動情報のオープン化

博物館の収集保管された資料と関連する研究成果の一部は，展示や教育活動を通じて社会に還元されています。地域の博物館にある貴重な資料を保存が損なわれない範囲で展示・教育活動に活用し，人々に地域の文化資源の素晴らしさ，独自性，価値を伝えることが必要です。このような資料，研究成果，教育活動等の情報を博物館資源としてデータベース化し，オープン化し，活用し，社会の要請に基づき，人々に還元することでその文化的価値を高めることができます。オープン化については様々な課題がありますが，価値を共有する文化を私たちが大切にすることが重要です。

3. 博物館資源と人々をつなぐ

博物館資源と人々をつなぎ，資源を活用することは，地域博物館を支援し，地域の文化を醸成し，教育を振興することになります。それには，博物館の壁を乗り越えて人々に博物館資源を有効活用してもらうための効果的な展示法，解説方法，ICT を活用したアクセシビリティの向上，それらを担う人材（コミュニケーターやボランティア等）が必要です。秩父宮スポーツ博物館がこれらの情報を広く収集し，発信して，地域のスポーツ拠点を支援していくことが期待されます。

4. ミッションの再定義～地域の知産知承を目指して～

博物館は，地域にある知を掘り起こし，知を創造し，知を共有し，継承し，発信していくことが重要です。これは，人と人，世代をつなぐ知のプラットフォームというべき機能で，私は地域社会における「知産知承」と言っております。東京五輪を契機に，各地の博物館が地域・企業などと連携して，日本各地で研究成果と資料を継続的に提供し，生涯学習としてスポーツ事業を展開する。秩父宮スポーツ博物館には，その要として，自らのコレクションの収集保管，調査研究，展示・教育活動に加え，地域の関連博物館のコレクション，調査研究，教育活動等の情報をネットワーク化し，その活動を支援する役割を期待します。